

広島大学大学院  
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム  
第12回ショートフィールドビジットを実施しました

平成28年3月14日(月)～16日(水)に、本プログラム学生及び教職員の9名が、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構(JAEA)と株式会社千代田テクノルを訪問しました。

3月14日の午前中は、JAEA 原子力緊急時支援・研修センターを訪問し、原子力災害が発生した際の緊急時対応室や、移動式ホールボディーカウンタ等を見学しました。午後は、JAEA 核燃料サイクル工学研究所内の再処理分離精製工場において、MOX 燃料の再処理技術について、また、地層処分基盤研究施設では、高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する知見を得ました。

3月15日は、JAEA 大洗研究開発センターにおいて、「常陽」、「HTTR (High Temperature engineering Test Reactor)」、「JMTR (Japan Materials Testing Reactor)」の見学を行い、3つの研究炉の原理や特徴等について学習しました。

3月16日は、株式会社千代田テクノルを訪問し、大貫台事業所では、ガラスバッチ(個人線量計)の製造工程、線量計測ラインを見学しました。また、大洗研究所では、放射線測定装置の校正を行っている現場を見学し、校正方法等について学習しました。

参加者からは、「原子炉格納容器の内部や、中央制御室等を見学することが出来て非常に貴重な経験となった。」、「見学を行うことによって、机上学習の知識がより深く定着した。」といったコメントがあり、非常に充実した機会となりました。



JAEA  
原子力緊急時支援・研修センター



千代田テクノル株式会社  
ガラスバッチ線量計測ライン